

『古事記』及び『日本書紀』の「さかひ」一覧

通番	當該漢字	『古事記』原文一文【境】【堺】DB	語訓	卷
17	境	於今傳聖帝。定境開邦、制于近淡海、正姓撰氏、勒于遠飛鳥。	定境	上
1211	境	大倭日子鉏友命、坐輕之境岡宮、治天下也。	輕之境岡宮	中
2324	境	次境之黑日子王。	境之黑日子王	下
221	堺	故、其所神避之伊邪那美神者、葬出雲國與伯伎國堺比婆之山也。	國堺	上
1256	堺	大倭根日子國玖琉命、坐輕之堺原宮、治天下也。	輕之堺原宮	中
1804	堺	一柱故、建内宿禰爲大臣、定賜大國小國之國造、亦定賜國國之堺、及大縣小縣之縣主也。	國之堺	中

通番	漢字	『日本書紀』【境】【堺】字	卷	當該	よみ
13623	堺	天下に巡行きて、諸國の境堺を限分ふ。	卷廿九	境堺	さかひ
10804	堺	後に、三輪栗隈君東人を遣して、任那國の堺を觀察しめたまふ。	卷廿五	堺	さかひ
11951	堺	怒受利山は、百濟の東の堺なりといふ。	卷廿六	堺	さかひ
12082	堺	是に由りて、唐人、其の南の堺を略むること得ず、	卷廿七	堺	さかひ
13683	堺	辛巳に、伊勢王等を遣して、諸國の堺を定めしむ。	卷廿九	堺	さかひ
3577	堺	各封堺を貪りて、並に相盜略む。	卷七	封堺	さかひ
11242	堺	國國の疆堺を觀て、	卷廿五	疆堺	さかひ
576	境	各其の境を有たしむ。	卷一	境	
3607	境	往きて其の境に臨みて、示すに徳教を以てせむに、	卷七	境	さかひ
3648	境	横に玉浦を渡りて、蝦夷の境に至る。	卷七	境	さかひ
3730	境	愛を忍びて賊の境に入らしむ。	卷七	境	さかひ
4603	境	是に、木菟宿禰等、精兵を進めて、新羅の境に莅む。	卷十	境	さかひ
7366	境	亦北の境の五つの城を拔る。	卷十七	境	さかひ
7380	境	數境を越えて來り侵す。	卷十七	境	さかひ
7573	境	「問者連年に、登穀えて境を	卷十八	境	さかひ
7783	境	然るを任那の境境は新羅に接れり。	卷十九	境	さかひ
7795	境	又任那の境境に、新羅を徵召して、聽らむや	卷十九	境	さかひ
7841	境	方今任那の境、新羅に接れり。	卷十九	境	さかひ
7864	境	又日本の卿等、久しく任那の國に住りて、近	卷十九	境	さかひ
8025	境	く新羅の境に接れり。	卷十九	境	さかひ
8081	境	△新羅、復他の境を侵し逼むること無し。	卷十九	境	さかひ
9251	境	新羅と安羅と、兩國の境に、大きなる江水有り。	卷十九	境	さかひ
9252	境	近江臣滿を東山道の使に遣して、蝦夷の國の境を觀しむ。	卷廿一	境	さかひ
9253	境	東の方の海に濱へる諸國の境を觀しむ。	卷廿一	境	さかひ
10839	境	阿倍臣を北陸道の使に遣して、越等の諸國の境を觀しむ。	卷廿一	境	さかひ
11386	境	茅渟道より、逃げて倭國の境に向く。	卷廿五	境	さかひ